

薬剤部通信

富山市民病院 薬剤部
発行ID:1809-1
発行日:平成30年9月

1. 薬事委員会報告（平成30年9月18日）
 - (1) 新規採用医薬品（9薬品10規格）
 - (2) 院外処方限定医薬品（6薬品7規格）
 - (3) 採用中止医薬品（9薬品9規格）
2. 販売中止の医薬品について
3. 後発医薬品への切り替えについて

1. 薬事委員会報告（平成30年9月18日）

(1) 新規採用医薬品

分類	カリウムイオン競合型アシッドブロッカー		
薬品名	㊞ タケキャブ錠 10mg		
一般名	ボノプラザンフマル酸塩	メーカー	武田薬品工業
薬価収載年月日	2015年2月24日		
規格・薬価	10mg1錠：134.40		
効能・効果	<p>1. 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制</p> <p>2. 下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助</p> <p>胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎</p>		
用法・用量	<p>胃潰瘍、十二指腸潰瘍の場合</p> <p>通常、成人にはボノプラザンとして1回20mgを1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。</p> <p>逆流性食道炎の場合</p> <p>通常、成人にはボノプラザンとして1回20mgを1日1回経口投与する。なお、通常4週間までの投与とし、効果不十分の場合は8週間まで投与することができる。</p> <p>さらに、再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法においては、1回10mgを1日1回経口投与するが、効果不十分の場合は、1回20mgを1日1回経口投与することができる。</p> <p>低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制の場合</p> <p>通常、成人にはボノプラザンとして1回10mgを1日1回経口投与する。</p> <p>非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制の場合</p> <p>通常、成人にはボノプラザンとして1回10mgを1日1回経口投与する。</p> <p>ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助の場合</p> <p>通常、成人にはボノプラザンとして1回20mg、アモキシシリン水和物として1回750mg（力価）及びクラリスロマイシンとして1回200mg（力価）の3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。なお、クラリスロマイシンは、必要に応じて適宜増量することができる。ただし、1回400mg（力価）1日2回を上限とする。</p> <p>プロトンポンプインヒビター、アモキシシリン水和物及びクラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功の場合は、これに代わる治療として、通常、成人にはボノプラザンとして1回20mg、アモキシシリン水和物として1回750mg（力価）及びメトロニダゾールとして1回250mgの3剤を同時に1日2回、7日間経口投与する。</p>		
申請科	内科		

分類	経口腸管洗浄剤		
薬品名	㊞モビブレップ配合内用剤		
一般名	該当しない	メーカー	EA ファーマ
薬価収載年月日	2013年5月31日		
規格・薬価	1袋：2,136.70		
効能・効果	大腸内視鏡検査、大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除		
用法・用量	<p>本剤1袋を水に溶解して約2Lの溶解液とする。</p> <p>通常、成人には溶解液を1時間あたり約1Lの速度で経口投与する。溶解液を約1L投与した後、水又はお茶を約0.5L飲用する。ただし、排泄液が透明になった時点で投与を終了し、投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用する。排泄液が透明になっていない場合には、残りの溶解液を排泄液が透明になるまで投与し、その後、追加投与した溶解液量の半量の水又はお茶を飲用する。なお、本剤1袋（溶解液として2L）を超える投与は行わない。</p> <p>大腸内視鏡検査前処置 検査当日の朝食は絶食（水分摂取は可）とし、検査開始予定時間の約3時間以上前から投与を開始する。</p> <p>大腸手術前処置 手術前日の昼食後は絶食（水分摂取は可）とし、昼食後約3時間以上経過した後、投与を開始する。</p>		
申請科	内科		

分類	経口FXa阻害剤		
薬品名	㊞リクシアナOD錠30mg		
一般名	エドキサバンチル酸塩水和物	メーカー	第一三共
薬価収載年月日	2017年8月16日		
規格・薬価	30mg1錠：538.40		
効能・効果	<p>リクシアナOD錠30mg</p> <p>1. 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制</p> <p>2. 静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制</p> <p>3. 下記の下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 膝関節全置換術、股関節全置換術、股関節骨折手術</p>		
用法・用量	<p>リクシアナOD錠30mg</p> <p>1. 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制 通常、成人には、エドキサバンとして以下の用量を1日1回経口投与する。 体重60kg以下 30mg 体重60kg超 60mg なお、腎機能、併用薬に応じて1日1回30mgに減量する。</p> <p>2. 静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制 通常、成人には、エドキサバンとして以下の用量を1日1回経口投与する。 体重60kg以下 30mg 体重60kg超 60mg なお、腎機能、併用薬に応じて1日1回30mgに減量する。</p> <p>3. 下肢整形外科手術施行患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制 通常、成人には、エドキサバンとして30mgを1日1回経口投与する。</p>		
申請科	整形外科		

分類	血漿分画製剤		
薬品名	ⓈⓂ ボルヒール組織接着用 0.5ml		
一般名	人フィブリノゲン、人血液凝固第Ⅲ因子、アプロチニン液、トロンピン、塩化カルシウム水和物	メーカー	一般財団法人化学及血清療法研究所
薬価収載年月日	1991年5月31日		
規格・薬価	0.5mL1組：6,774.20		
効能・効果	組織の接着・閉鎖（ただし、縫合あるいは接合した組織から血液、体液または体内ガスの漏出をきたし、他に適切な処置法のない場合に限る。）		
用法・用量	<p>フィブリノゲン凍結乾燥粉末（バイアル1）をフィブリノゲン溶解液（バイアル2）全量で溶解し、A液とする。</p> <p>トロンピン凍結乾燥粉末（バイアル3）をトロンピン溶解液（バイアル4）全量で溶解し、B液とする。溶解した両液の等容量を接着・閉鎖部位に重層又は混合して適用する。</p> <p>通常、10cm²あたりA液B液各々1mLを適用する。</p> <p>なお、接着・閉鎖部位の状態、大きさなどに応じて適宜増減する。</p>		
申請科	耳鼻咽喉科		

分類	がん性皮膚潰瘍臭改善薬		
薬品名	ロゼックスゲル0.75%		
一般名	メトロナゾール	メーカー	マルホ
薬価収載年月日	2015年2月24日		
規格・薬価	0.75%1g：101.10		
効能・効果	がん性皮膚潰瘍部位の殺菌・臭気の軽減		
用法・用量	<p>症状及び病巣の広さに応じて適量を使用する。潰瘍面を清拭後、1日1～2回ガーゼ等にのばして貼付するか、患部に直接塗布しその上をガーゼ等で保護する。</p>		
申請科	外科		

分類	遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子Fc領域融合タンパク質製剤		
薬品名	ⓈⓂ イロクテイト静注用3000		
一般名	エフラロクトグ アルファ	メーカー	バイオベラティブ・ジャパン
薬価収載年月日	2015年2月24日		
規格・薬価	3,000国際単位1瓶：237,977		
効能・効果	血液凝固第Ⅷ因子欠乏患者における出血傾向の抑制		
用法・用量	<p>本剤を添付の溶解液全量で溶解し、数分かけて緩徐に静脈内に投与する。</p> <p>通常、1回体重1kg当たり10～30国際単位を投与するが、患者の状態に応じて適宜増減する。</p> <p>定期的に投与する場合、通常、1日目に体重1kg当たり25国際単位、4日目に体重1kg当たり50国際単位から開始し、以降は患者の状態に応じて、投与量は1回体重1kg当たり25～65国際単位、投与間隔は3～5日の範囲で適宜調節する。週1回の投与を行う場合は、体重1kg当たり65国際単位を投与する。</p>		
申請科	内科		

分類	キャンディン系抗真菌剤		
薬品名	㊞カンサイダス点滴静注用 50mg、70mg		
一般名	カスポファンギン酢酸塩	メーカー	MSD
薬価収載年月日	2012年4月17日		
規格・薬価	50mg1瓶：16,941 70mg1瓶：22,961		
効能・効果	<p>真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 カンジダ属又はアスペルギルス属による下記の真菌感染症</p> <p>1) 食道カンジダ症 2) 侵襲性カンジダ症 3) アスペルギルス症（侵襲性アスペルギルス症、慢性壊死性肺アスペルギルス症、肺アスペルギローマ）</p>		
用法・用量	<p><成人></p> <p>1. 真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症 通常、カスポファンギンとして投与初日に70mgを、投与2日目以降は50mgを1日1回投与する。本剤は約1時間かけて緩徐に点滴静注する。</p> <p>2. カンジダ属又はアスペルギルス属による下記の真菌感染症</p> <p>1) 食道カンジダ症 通常、カスポファンギンとして50mgを1日1回投与する。本剤は約1時間かけて緩徐に点滴静注する。</p> <p>2) 侵襲性カンジダ症、アスペルギルス症 通常、カスポファンギンとして投与初日に70mgを、投与2日目以降は50mgを1日1回投与する。本剤は約1時間かけて緩徐に点滴静注する。</p> <p><小児></p> <p>真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症、カンジダ属又はアスペルギルス属による食道カンジダ症、侵襲性カンジダ症、アスペルギルス症 通常、カスポファンギンとして投与初日に70mg/m²（体表面積）を、投与2日目以降は50mg/m²（体表面積）を1日1回投与する。本剤は約1時間かけて緩徐に点滴静注する。 なお、1日1回50mg/m²（体表面積）の投与で効果不十分の場合には、1日1回70mg/m²（体表面積）まで増量することができる。いずれの場合も1日用量として70mgを超えないこと。</p>		
申請科	内科		

分類	麻酔用鎮痛剤		
薬品名	㊞㊞㊞フェンタニル注射液 0.5mg「ヤンセン」		
一般名	フェンタニルクエン酸塩	メーカー	ヤンセンファーマ
薬価収載年月日	2009年5月		
規格・薬価	0.005%10mL1管：945		
効能・効果	<p>1. 全身麻酔、全身麻酔における鎮痛 2. 局所麻酔における鎮痛の補助 3. 激しい疼痛（術後疼痛、癌性疼痛など）に対する鎮痛</p>		
用法・用量	<p>1. 全身麻酔、全身麻酔における鎮痛 通常、成人には、下記用量を用いる。なお、患者の年齢、全身状態に応じて適宜増減する。 〔バランス麻酔に用いる場合〕 麻酔導入時 フェンタニル注射液として0.03～0.16mL/kg（フェンタニルとして1.5～8μg/kg）を緩徐に静注するか、又はブドウ糖液などに希釈して点滴静注する。</p>		

	<p>麻酔維持 ブドウ糖液などに希釈して、下記 (1) 又は (2) により投与する。</p> <p>(1) 間欠投与 フェンタニル注射液として 0.5～1mL (フェンタニルとして 25～50μg) ずつ静注する。</p> <p>(2) 持続投与 フェンタニル注射液として 0.01～0.1mL/kg/h (フェンタニルとして 0.5～5μg/kg/h) の速さで点滴静注する。</p> <p>[大量フェンタニル麻酔に用いる場合] 麻酔導入時 フェンタニル注射液として 0.4～3mL/kg (フェンタニルとして 20～150μg/kg) を緩徐に静注するか、又はブドウ糖液などに希釈して点滴静注する。</p> <p>麻酔維持 必要に応じて、ブドウ糖液などに希釈して、フェンタニル注射液として 0.4～0.8mL/kg/h (フェンタニルとして 20～40μg/kg/h) の速さで点滴静注する。通常、小児には、下記用量を用いる。なお、患者の年齢、全身状態に応じて適宜増減する。</p> <p>[バランス麻酔又は大量フェンタニル麻酔に用いる場合] 麻酔導入時 フェンタニル注射液として 0.02～0.1mL/kg (フェンタニルとして 1～5μg/kg) を緩徐に静注するか、又はブドウ糖液などに希釈して点滴静注する。大量フェンタニル麻酔に用いる場合は、通常、フェンタニル注射液として 2mL/kg (フェンタニルとして 100μg/kg) まで投与できる。</p> <p>麻酔維持 フェンタニル注射液として 0.02～0.1mL/kg (フェンタニルとして 1～5μg/kg) ずつ間欠的に静注するか、又はブドウ糖液などに希釈して点滴静注する。</p> <p>2. 局所麻酔における鎮痛の補助 通常、成人には、フェンタニル注射液として 0.02～0.06mL/kg (フェンタニルとして 1～3μg/kg) を静注する。なお、患者の年齢、全身状態、疼痛の程度に応じて適宜増減する。</p> <p>3. 激しい疼痛（術後疼痛、癌性疼痛など）に対する鎮痛 通常、成人には、下記用量を用いる。なお、患者の年齢、症状に応じて適宜増減する。</p> <p>[静脈内投与の場合] 術後疼痛に用いる場合は、フェンタニル注射液として 0.02～0.04mL/kg (フェンタニルとして 1～2μg/kg) を緩徐に静注後、フェンタニル注射液として 0.02～0.04mL/kg/h (フェンタニルとして 1～2μg/kg/h) の速さで点滴静注する。 癌性疼痛に対して点滴静注する場合は、フェンタニル注射液として 1日 2～6mL (フェンタニルとして 0.1～0.3mg) から開始し、患者の症状に応じて適宜増量する。</p> <p>[硬膜外投与の場合] 単回投与法 フェンタニル注射液として 1回 0.5～2mL (フェンタニルとして 1回 25～100μg) を硬膜外腔に注入する。</p> <p>持続注入法 フェンタニル注射液として 0.5～2mL/h (フェンタニルとして 25～100μg/h) の速さで硬膜外腔に持続注入する。</p> <p>[くも膜下投与の場合] 単回投与法 フェンタニル注射液として 1回 0.1～0.5mL (フェンタニルとして 1回 5～25μg) をくも膜下腔に注入する。</p>
申請科	麻酔科

分類	LH-RH 誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤		
薬品名	㊞ リュープリン PRO 注射用キット 22.5mg		
一般名	リュープロレリン酢酸塩	メーカー	武田薬品工業
薬価収載年月日	2015年6月19日		
規格・薬価	22.5mg/1筒：94, 108		
効能・効果	1. 前立腺癌 2. 閉経前乳癌		
用法・用量	通常、成人には24週に1回リュープロレリン酢酸塩として22.5mgを皮下に投与する。投与に際しては、注射針を上にしてプランジャーロッドを押して、懸濁用液全量を粉末部に移動させて、泡立てないように注意しながら、十分に懸濁して用いる。		
申請科	泌尿器科		

規制区分：㊚：毒薬、㊛：劇薬、㊜：麻薬、㊝：向精神薬、㊞：処方せん医薬品
㊟：習慣性医薬品、㊠：生物由来製品、㊡：特定生物由来製品、㊢：放射性医薬品

(2) 院外処方限定医薬品

区分	薬品名（一般名）	製造販売元	薬効	申請科
内服	イブランスカプセル25mg イブランスカプセル125mg	ファイザー	抗悪性腫瘍剤（CDK 4/6 阻害剤）	外科
内服	ベムリディ錠25mg	ギリアド・サイエンシズ	抗ウイルス化学療法剤	内科
内服	マヴィレット配合錠	アヅヴィ合同会社	抗ウイルス化学療法剤	内科
内服	リクシアナOD錠60mg	第一三共	経口FXa阻害剤	整形外科
外用	デルモゾールGクリーム	岩城製薬	副腎皮質ホルモン・抗生物質配合外用剤	外科
外用	ロコアテープ	大正製薬	経皮吸収型鎮痛消炎剤	整形外科

(3) 採用中止医薬品（在庫残量は平成30年9月20日時点）

在庫残量のある薬品の在庫消費にご協力ください。

区分	薬品名	院内在庫	備考
内服	アヘンチンキ	104mL	代替削除
内服	タケキャブ錠20mg	0錠	代替削除（院外限定）
内服	ムーベン配合内用液	4瓶	代替削除
内服	リクシアナ錠30mg	0錠	代替削除
外用	ベリプラストP コンビセット 組織接着用1mL	0組	代替削除
外用	マスキンW・エタノール液(0.5W/V%)	0本	代替削除
注射	アドベイト静注用1000	0瓶	代替削除
注射	ファンガード点滴用75mg	11瓶	代替削除

(4) 院外処方限定薬の追加または削除

区分	薬品名	備考
内服	タケキャブ錠20mg	追加
内服	リクシアナ錠60mg	削除

2. 販売中止の医薬品について

区分	薬品名（製造販売元）		代替薬品名（製造販売元）
内服	(院外限定薬) トミロン細粒小児用 10% (大正 富山医薬品)	⇒	削除
内服	ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「トーワ」(東和 薬品)	⇒	ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「JD」(ジェイドルフ製薬)
外用	ステリコール液 2w/v% 5L (日本新薬)	⇒	削除
注射	ヒーロン V0.6 眼粘弾剤 2.3% (エイエムオー・ ジャパン)	⇒	ヒーロン V 眼粘弾剤 2.3% シリンジ 0.6mL (エイエムオー・ ジャパン)
注射	マグネビスト静注シリンジ 10mL (バイエル薬品)	⇒	削除
注射	マグネビスト静注シリンジ 20mL (バイエル薬品)	⇒	削除

3. 後発医薬品への切り替えについて

下記薬品について、後発医薬品への切り替えを行います。ご協力よろしくお願ひします。

先発品名称	製造販売元		後発品名称	製造販売元
クレストール錠 2.5mg	アストラゼネカ	→	ロスバスタチン錠 2.5mg「DSEP」	第一三共エスファ
オルメテックOD錠 10mg	第一三共	→	オルメサルタン OD 錠 10mg「DSEP」	第一三共エスファ
ムコソルバンL錠 45mg	帝人ファーマ	→	アンブロキシコール塩酸塩徐放 OD 錠 45mg「ZE」	全星薬品工業
ルブラック錠 4mg	田辺三菱製薬	→	トラセミド OD 錠 4mg「TE」	トーアエイヨー
グルファスト錠 10mg	キッセイ薬品工業	→	ミチグリニド Ca・OD 錠 10mg「三和」	大興製薬
ハルナールD錠 0.2mg	アステラス製薬	→	タムスロシン塩酸塩 OD 錠 0.2mg「明 治」	Meiji Seika ファルマ
セファドール錠 25mg	日本新薬	→	ジフェニドール塩酸塩錠 25mg「ト ーワ」	東和薬品
フリバスOD錠 50mg	旭化成ファーマ	→	ナフトピジル OD 錠 50mg「EE」	エルメッドエーザイ
スピロペント錠 10μg	帝人ファーマ	→	トニール錠 10μg	原沢製薬工業
カルブロック錠 8mg	第一三共	→	アゼルニジピン錠 8mg「日医工」	日医工

- ・ ルブラック錠 4mg、グルファスト錠 10mg の 2 医薬品は、「錠」から「OD錠」に変更する。